

R6年9月26日（木）永平寺キャンパスにて

普通救命講習会を開催しました

今年も、永平寺消防署より救急救命士を始め消防隊員の方に来ていただき、看護学科1年生を始め、経済学科、海洋生物資源学科の学生、教職員を含む計38名が午前午後に分かれ参加しました。

普通救命講習会には、事前に応急手当WEB講習の受講が必要です。

WEB講習とは、消防庁が一般市民向けに公開しているシステムで、応急手当の基礎的な知識を学ぶことができます。受講後は、受講証明書が発行されます。この講習を受講しておくことで、3時間の講習を2時間に短縮して参加することができます。



まずは胸骨圧迫を各自実施



救急救命士の小山田さん(右)の説明のもと、伊井さんが実演します



新人の西野さん(左)と伊井さん

・胸骨圧迫を躊躇しない ・パットははがれないようしっかりと貼る



先生方も頑張りました↑

「倒れた人を発見」から胸骨圧迫、AED実施までを演習。

相手が女性の場合も胸骨圧迫をためらわない。また、高齢者は胸骨の弾力も弱く肋軟骨が損傷したり骨折の危険がありますが、**胸骨圧迫は消防隊が到着するまで（交替するまで）**続けます。



パットを貼る前に汗を拭く、ペースメーカーが入っている場所は避けて、ネックレスなどもよけて。

位置は右胸と左脇。左脇は側面まで**浮かさないようしっかりと**貼ります。パットは、粘着力が強く貼り直しが難しい為、**落ち着いて行う**ことが大事です。



レスキュー隊員の末永さん(左)

両手で喉をつかむ仕草は「窒息のサイン」で、反応(意識)がある場合異物除去が必要です。背部叩打法では、手のひらの基部で上に突き上げるように強く叩きます。

腹部突き上げ法は、左の写真のように後ろにまわりおへその位置で両手で握りこぶしを作り、上方に圧迫するように突き上げます。この方法は、妊婦さん、幼児には行いません



「チョーク(窒息)サイン」

という呼び方は世界共通です